

昭和六十二年

皇紀  
二千六百四十七年

# 新年賀 謹



毎月十五日発行  
発行所

宗像大社  
宗像大社  
〒811-85 福岡県宗像郡玄海町  
電話 0940-62-1311代  
定価 一年送料共 1000円

## 皇室の弥栄と

### 国家の隆昌を言寿ぎ奉る

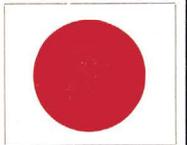
宗像大社  
宮司 養父 守



#### 年頭の挨拶

昭和六十二年丁卯（ひのとう）

皇紀二千六百四十七年の新春を言寿ぎ謹んで皇室の弥栄と氏子崇敬者各位の御繁栄を心からお祈り申し上げます



二月十一日には  
国旗を掲げ  
建国記念日を  
祝いましょう

#### 敬神生活の綱領

一、神の恵みと祖先の恩とに感謝し、明き清きまこと  
を以て祭祀にこころをこめて  
一、世のため人のために奉仕し、神のみこともちとし  
て世をつくり固め成すこと  
一、大御心をいだきてむつび和らぎ、国の隆昌と世  
界の共存共栄とを祈ること

昭和六十二年の新春を迎えるにあたり、皇室の弥栄と国家の隆昌を言寿ぎ奉り、併せて氏子崇敬者各位の益々の御多祥を心からお祈り申し上げます。  
さて昨年は、我が国歴代皇室の中で最も長い「天皇陛下御在位六十年」の記念すべき年であり、この慶事を奉祝する諸行事が政府主催によって盛大に行われ、また全国各地に於ても真心からなる祝賀の式典が開催され、国民挙げて御聖徳に深い感謝の誠を捧げると共に、陛下の御長寿を心からお祈り申し上げた次第でございます。

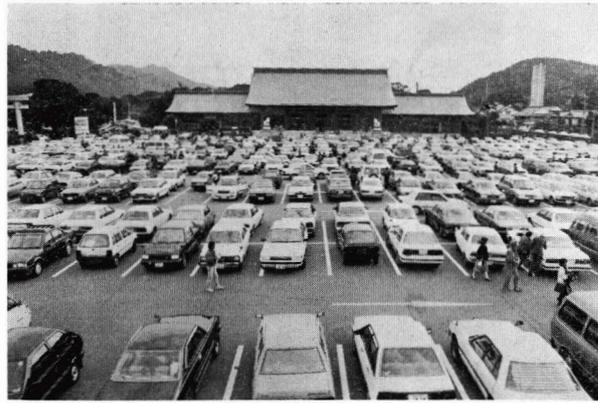
昭和五十八年五月十五日の皇太子殿下、同妃両殿下の御参拝に続くこの度の御参拝は、まことに異例のことであり、度重なる光栄に關係者一同恐懼感激した次第であります。  
この記念すべき慶祝の佳歳も悉く過ぎつゝありました晩秋の十一月八日、晴天の霹靂ともいふべき、華津宮司の急逝は、あまりにも衝撃的であり、当社からも多大な損失でありました。その折、氏子崇敬者各位より賜りました御芳志に対し、改めて厚く御礼申し上げます。

1987  
交通安全宗像大社の御神徳をたたえ奉りて  
謹んで新年の御祝詞を申し上げます

福岡トヨタ自動車株式会社 取締役社長 金子宜嗣 福岡市中央区渡辺通り4丁目9番25号 電話代761-3331	愛される車をめざして TOYOTA 福岡のトヨタグループ	トヨタオート北九州株式会社 取締役社長 ト部典明 北九州市八幡西区皇后崎町14番6号 電話代612-2111
福岡トヨペット株式会社 取締役社長 野村恵之 福岡市博多区東光1丁目6番13号 電話代411-1121	トヨタカローラ博多株式会社 取締役社長 久恒鏡造 福岡市博多区豊2丁目3番50号 電話代411-2111	トヨタピスタ福岡株式会社 取締役社長 喜多村禎勇 福岡市中央区薬院1丁目5番8号 電話代714-6661
トヨタカローラ福岡株式会社 代表取締役社長 金子宜嗣 福岡市中央区長浜2丁目1番5号 電話代712-7111	トヨタオート福岡株式会社 取締役社長 金野宗次 福岡市博多区竹下2丁目2番31号 電話代411-5511	トヨタピスタ北九州株式会社 代表取締役社長 大石勇 北九州市八幡東区桃園2丁目1番1号 電話代602-7811

# 新春に祈る!!

## — 昭和六十二年を祝う 輝く朝明け —



新春を寿ぐように陽光の光り輝く中、昭和六十二年が明け、本年一年の平穏無事を、更なる飛躍を願う人々の参拝が連日続き、社頭も大いに賑った。

今上陛下御在位六十年という、誠に慶賀すべき一年であった昭和六十二年も、除夜祭の参行を最後にして静かに幕を降し、迎春の準備が全て整った境内に、一刻がら初詣を待ちかねた境内の人々、境内の静寂が漂う中、境内の参道を照らす照明のみが、年明けを今や遅しと輝いていた。

午後十一時に神門前の大庭原に点火されると、赤い炎の中に神門がくつきりと浮び上がり、薪のはぜる音、舞う火の粉に、いよいよ新年の足音が、すくくそと遠近づいて来たこと

を感じる。この頃には新年を宗像大神の神前で迎えようと初詣の人々が集い始める。昭和六十二年一月一日、午前零時、一番太鼓を合図に閉ざされた境内の静寂が、大庭原から初詣を待ちかねた境内の人々が、神前に殺到、静かに拍手の音が響き渡り、平穏無事を一心に祈る姿は真剣そのものであった。社頭には新年の御礼、細守や、

縁起物の破魔矢・鐘矢・福迎えを受ける人々の波が、途切れることなく続いた。祈願殿前の大駐車場は、すでに参拝者車で埋り、当内外の道路は、ヘッドライトの光が延々と続く。境内に流れる雅楽の音と、エンジンやクラクションの音、スピーカーから流れる交通安全の御祈願の案内の音、交通安全の御祈願の案内の音等が一緒に響き、初春の雰囲気は雑踏の中に満ち溢れていた。

本年は例年になく暖いお正月となり、参拝者も多かった。境内、参道には晴着の姿が目立ち、あちこちでスナップ写真をとる光景が見られた。本殿、儀式殿、祈願殿の太鼓の音も途切れることなく続き、一年間の家内安全、交通安全などを祈る人々の御祈願が終日進行された。参拝者の波が一段落する頃、ようやく東の空ももうすらすらと明るくなり、まばゆいばかりの初日の出となった。

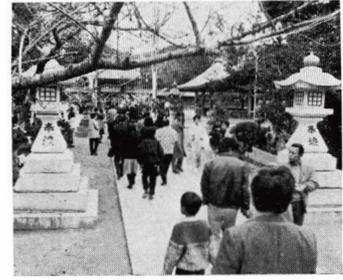
今年も四日曜日である



つた為、例年の三ヶ日の賑を願う気持ちがいつになく強いが四日迄続いた。五日からは会社関係の仕事始めに伴い、交通安全、業務繁栄を祈る人々や、山口県、広島県を始め九州各県からの団体参拝などで大いに賑った。

今年三ヶ日の参拝者並びに参拝車輛は、一日二十二万人、五万五千台、二日十七万人、三万五千台、三日十六万人、三万台、本年一年の皆様方の御多幸を心よりお祈り申し上げます。

社頭での賑いは例年にならぬものであったが、今年は昨年からの円高不況による経済的不安、又我国を取り巻く厳しい国際環境など、内外の社会状況は予断を許さないものがあるだけに、参拝者もその空気を敏感に感じており、年頭に神前で祈る人々の表情には、家族の安泰と幸福



### 御礼

当大社恒例の大祓式参行に当りましては、宗像市・郡内氏子各位並びに全国崇敬者の皆様より、多数の人数をお寄せいただき、お蔭を以ちまして、祭典は天候にも恵まれ滞りなく、盛大裡に参行致すことが出来ました。

ここに誌上を以ちまして謹んで御礼申し上げます。

昭和六十二年一月吉日  
宗像大社  
宮司 養父 守

### 献米袋配布並に取纏め御礼

昭和六十一年度、宗像大社献米袋奉告参行にあたり、市・郡氏子各位への献米袋配布並に取纏めにつきまして、は年末年始お忙しい中、御協賛を賜り厚く御礼申し上げます。

祭典は例年をまして盛大厳粛に参行致すことが出来ました。

ここに誌上を以ちまして謹んで御礼申し上げます。

昭和六十二年一月吉日  
宗像大社  
宮司 養父 守  
宗像大社評議員 会長 山本 三吾  
宗像大社氏子会 総代 各位

### 謹んで新年の御祝詞を申し上げます

- 昭和六十二年元旦
- 宗像大社責任役員会  
宗像大社氏子総代会  
宗像大社沖中両宮奉賛会
- 宗像大社氏子総代会  
会長 山本 三吾  
代表役員 養父 守  
責任役員 出光 昭介  
吉本 弘次  
永倉 三郎  
河野 幸人  
山本 三吾  
占部 真太郎  
八波 武  
占部 文男  
宇都宮 淳
- 宗像大社沖中両宮奉賛会  
会長 河野 幸人  
副会長 倉元 清彦  
占部 文男  
藤井 睦雄  
吉田 雅夫  
黒石 雅賢  
楠田 繁男  
高山 茂  
宗像大社沖中両宮奉賛会  
会長 河野 幸人  
副会長 沖西 幸人  
佐藤 鶴吉

### 謹んで新年の御祝詞を申し上げます

- 宗像大社社務所  
昭和六十二年元旦
- 宮司 養父 守  
権宮司 宇都宮 淳  
権祢宜 宗像 清文  
太田 可愛  
升谷 勝良  
大野 宗康  
山田 幸雄  
神島 定雄  
石橋 清寿  
堤 宏  
高向 弘  
東 正秀  
門司 成人  
玉木 正之  
渡辺 秀丸  
藤川 耕一  
杉山 安彦  
七田 千恵  
河井 晴美  
白石美奈子  
村田 知世  
桶口寿美江  
松本 美樹  
杉野 優子  
福崎かつえ  
永田 里美  
花田 京子  
水上 久美
- 巫女 木原麻由子  
吉田 童子  
井田千鶴江  
春土 博江  
岡部 祥子  
中野 京恵  
村山由美子  
野間 千矢  
小澤 京子  
渡邊 和夫  
西 長生  
吉武 隆則  
花田 清巳  
嶺 千鶴子  
吉田タミ子  
井上美千代  
原 カズ子  
松本 肇  
堀 豊三郎  
石井 一郎  
河津奈津子  
松崎孫四郎  
中村 百郎  
小方 百枝

昭和六十二年
1987



交通安全宗像大社の 御神徳をたたえ奉りて

## 謹んで新年の御祝詞を申し上げます

**福岡日産自動車株式会社**  
取締役社長 有 吉 龍 健  
福岡市博多区千代1丁目21番37号  
電話 463-5523

**福岡日産モーター株式会社**  
取締役社長 長 崎 久 吉  
福岡市博多区東比恵2丁目14-33  
電話 441-2323

**日産プリンス福岡販売株式会社**  
代表取締役 永 田 千 秋  
福岡市中央区平尾3丁目5-3  
電話 531-9561

**日産サニー福岡販売株式会社**  
代表取締役社長 小 田 切 忠 夫  
福岡市博多区半道橋1丁目9番10号  
電話 441-4132

**日産ディーゼル福岡販売株式会社**  
取締役社長 中 堂 廣  
福岡市博多区榎田1丁目4番3  
電話 441-1831

**日産チェリー福岡販売株式会社**  
取締役社長 石 綱 康 弘  
福岡市博多区半道橋1丁目10番10号  
電話 441-1123

—今年も安全運転を心掛けて下さい—



### 宗像大社歌会 俳句作品集(二七)

田熊 力丸 一郎  
妻徳の聞くや遠寺の除夜の鐘

福間 広渡 一寿軒  
眠りても放さぬ孫の干歳給

鐘 崎 岩瀬 辰夫  
玄界灘金波たよふ初日影

池 田 小田 しのめ  
掃き寄せて焚くには借しきもみじ哉

津屋崎 井浦 良介  
濱抱く街を見降す初酉

福岡中央 力丸 丸風  
異国旅果てなき空を鳥渡る

津屋崎 西住 三郎  
寄鍋のほどよく魚の身反り返えり

藤 沢 井上 玄洋  
陽を切つて浜に降り立つ冬の篇

田熊 安部 ゆき  
覚え書かいて忘れし師走かな



### 第三〇六回 宗像大社歌会詠草 中村 吾郎 選 毎月末日〆切

官 田 片山 朔子  
予定何もなき日と窓に寄り  
のけげば日照雨過ぎるよ初冬  
の朝を

(評) 一瞬の間に福なだ情  
感を直截に表出してその呼  
吸が美事。何も考えを及ば  
さなかつたところがよい。

東 郷 藤崎 辰子  
駅近く速度落しし列車より  
倉庫の間に雪の降る見ゆり

(評) 前歌の評と同じこと  
が言える。薄暗い倉庫の間  
に降りつく雪の白さが目に  
浮かんでくる。

大 島 屋形とみえ  
乾きたる土黒々と濡らしつ  
つ露ともなひて秋の雨降る

(評) 何のほからいもな  
く、あるが儘の姿をあるが  
ままに写して読者をしみじ  
みとさせる。生命感を持  
つ。

自由ヶ丘 後藤君代  
下卒の社はダムに沈みたる  
村を守りて丘の上に建つ

深 田 中野 節子  
回廊の障子明るきみ堂の中  
シンピジユムの香り静か  
なり

大 島 目原 節子  
長からむ勤務終ゆる日近づ  
くに夫淡々と今朝も出でゆ  
く

田 久 立花 勇雄  
丘畑の露草を刈る冷えし手  
に山の端出でし朝の日はさ  
す

香 椎 桜井 ツ子  
冬晴れの高き楓みゆく飛行  
機の音なく白き楓みゆく幸  
原 町 中村 幸

裏庭の椿の古木に集れる今  
朝の雀は三十羽位

池 田 小田 しのめ  
晴るる日の午後の光に梅咲  
けりいにしえの徳薫ふ如く

大 島 中村さつき  
その昔流人住みしとよこの  
浜辺清水流れて渡をばの映  
く

通り堂 大梨ヨシノ  
日一日表情豊かに百日(も  
もか) 経つ孫の成長病む夫  
に告ぐ

曲 天野トモエ  
観音の愛のみたまを心とし  
親しき友に年賀書きつく

福間 広渡一寿軒  
泣き止まぬ負う子の涙かま  
フラせぬうなじに冷やり盆  
の涙に落つ

鐘 崎 安永 久子  
逆光に黒くそぼ立つ鳥山の  
麓に集落の灯がともる

原 町 八波 五月  
葉かけぬ野菜作りを誇るか  
に夫は傘寿の春を迎ふる

徳 重 石松や寿子  
蚕を飼ひて手織りし伯母の  
嫁入布団松竹梅と家紋染め  
抜く

吉 留 白木ゆめ  
短命と手相見に言はれて五  
十年古布すきし今もほどほ  
どによき

池 田 小田 イセ  
聞き漏らす事の多かる吾な  
れど月に一度の歌会を待つ

福岡 清原 絹代  
読み疲れ庭に出し時隣室の  
振子時計がポンポンと鳴る

鐘 崎 岩瀬 辰夫  
米寿迄後三年をと履蘇祝ふ  
老人会の世話生甲斐ひに

大 井 吉田ますみ  
正月の花浴び終り何となく  
年待つ心沸きたるごとし

武 丸 立石せ乃  
些細なることに拘はり眠れ  
ざる幾夜かつづきぬ吾は老  
いたり

田熊 今村 重刀  
遠く住む娘より届きし舟前  
に包まれて夜ごと安げく眠  
る

田熊 力丸 一郎  
グループの忘年会の度に出  
て親しみつゝの組それぞれ

### 宗像大社一ヶ年祭事表

一月一日	歳旦祭
一月二日	新年祭
一月三日	元始祭
一月十三日	献米奉告祭
一月十五日	成人祭
二月三日	節分祭
二月十一日	建国祭
三月十九日	松尾神社祭
三月二十一日	皇霊殿遙拜式
四月一・二日	春季大祭
四月二日	宗像護国神社祭
四月十二日	沖・中両宮春季大祭
四月二十九日	天長祭
五月五日	五月祭浜宮祭
五月二十七日	沖津宮現地大祭
七月十五日	祇園祭
七月三十一日	大祓式並夏越祭
八月十五日	護国神社戦没者追悼祭
九月一日	千灯明
九月一日	風鎮祭
九月二十三日	皇霊殿遙拜式
十月一日	海上神幸「みあれ祭」
十月一〜三日	秋季大祭「田島放生会」
十月三日	宗像護国神社祭
十月十七日	表千家々元献茶祭
十一月三日	明治祭
十一月六日	沖・中両宮秋季大祭
十一月十五日	七五三祭
十一月二十三日	新嘗祭
十二月十五日	古式祭並鎮火祭
十二月十九日	松尾神社祭
十二月三十一日	大祓式並除夜祭
毎月十五日	月次祭

### 賀正

松尚開発株式会社  
福岡国際カントリークラブ  
池と赤松の三十六ホール

福岡県宗像市大字朝町  
電話〇九四〇・三二二三四四代

### 節分祭ご案内

新春を迎え、貴家益々、御清栄の段慶賀に存じま  
す。  
扱て、当大社恒例の節分祭を左記の如く斎行致しま  
すので御参拝下さいますよう御案内申し上げます。

記  
一、日時 昭和六十二年二月三日 午前十時  
一、会場 当大社祈願殿  
昭和六十二年一月吉日  
宗像大社社務所  
各位

一月二十五日〜二月八日迄、厄除祈願祭を左記によ  
り終日執り行います。

記  
一、祈願祭典場 於儀式殿  
一、祈願初穂料 一人 三〇〇〇円  
一、授与品 福升一箇(福豆入一合)  
厄除守一俵

### 賀正

開場して二十四年目  
歴史と格式を誇る  
シーサイドコース

西日本開発株式会社  
玄海ゴルフクラブ

福岡県宗像郡玄海町  
電話〇九四〇・六二二二三三(代)

## 新年おめでとうございます

〇玄海国定公園の中心……風光明媚……生魚料理……宗像大社からバス五分……神湊旅館組合



あ	け	ぼ	の	荘	電話〇九四〇・六二二二六六番
魚	屋	旅	館	電話〇九四〇・六二二二二三番	
み	な	と	荘	電話〇九四〇・六二二二五五番	
玄	海	旅	館	電話〇九四〇・六二二〇〇一	
高	嘉	旅	館	電話〇九四〇・六二二二二二番	
望	海	荘	電話〇九四〇・六二二一八一番		
ニ	ユ	ー	千鳥	荘 電話〇九四〇・六二二〇六八番	
大	島	屋	旅	館 電話〇九四〇・六二二〇五五番	
喜	楽	旅	館	電話〇九四〇・六二二〇三三番	
松	風	荘	電話〇九四〇・六二二〇二〇番		
泉	館	旅	館	電話〇九四〇・六二二〇三三五番	
玄	洋	荘	電話〇九四〇・六二二二七二番		
川	口	屋	旅	館 電話〇九四〇・六二二〇四八番	
勝	浦	荘	電話〇九四〇・六二二四七一番		
は	ま	荘	電話〇九四〇・六二二〇五〇番		